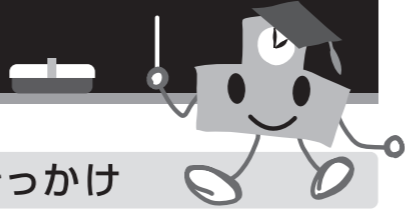


小学校の事例 清田区 清田小学校

地域をよく知り、好きになることから始め、地球環境を大切にすることを養う。

地域との交流から学年ごとに段階・視野を広げた、水を学ぶ環境教育に。実際に見聞きすることでより興味がわき、つながる広がる学習へ。



はじまり 校長先生と地域の方々との交流がきっかけ

本校では10年間継続できる環境活動を行っている。平成22年度に4年目を迎えた。現在の校長が赴任して以来、地域の方々と交流してきたことが、活動を始めるきっかけになった。

前年度に作成した活動プログラムの一連の流れをもとに、平成22年度も継続して「水」をテーマに活動した。

内容 地域から地球へ 子供たちの視野を広げる環境活動

3年生から6年生まで学年ごとにテーマを掲げ、地域の魅力や環境について調べている。上級生になるにつれ、児童の目や心は地域の未来や地球環境に向けられている。

3年生「大好き緑地」

清田緑地のよいところを探し、調べ、清田緑地の達人を目指す。調べたことを生かし、地域の人と交流していく。

4年生「魅力いっぱいの清田」

清田の魅力を探し、調べ、地域の人のお話を聞く。清田の魅力を感じるとともに、どうしてこの地域には魅力がいっぱいなのかを考える。

5年生「守ろう清田」

3・4年生で見聞きし、調べ、感じたことをもとに、自分たちができることを考える。清田の魅力を守り、次代に残すために行動し、清田への思いを深くする。

6年生「清田から発言～水・そして地球」

3・4・5年生で学んだことから、それぞれが問題意識をもつようになる。それは世界に通じる問題であり、「地域を大事にすることは、地球を大事にすること」に児童たちは気付いていく。



各学年の活動の様子

効果 自分たちが住んでいる地域に愛着と誇りを

環境活動をととして子供たちは地域に愛着をもち、地域の人と関わるようになった。その過程で清田の水を誇りに思うようになり、清田区で採水した水を、ミネラルウォーターとして製品化して、環境配慮に力を入れている飲料メーカーの工場見学なども行い、「水」をテーマに地域環境への理解を深めている。

環境については大人が学んで知識を教えるより、子供たちが実際に見聞きしたほうが身に付きやすく、興味もふくらむ。子供たちは、学んだことを家族に話したり、実践したりしており、家庭や地域への浸透にも効果的だ。



見学学習の様子

今後 必要なのは「点」より「線」の環境教育

環境教育は「点」で教えるのではなく、「線」で児童たちに理解させることが大切。「リングブルや紙をなぜ集めるのか?」「集めたものはどこへ運ばれるのか?」などその先のことについて学ぶことができるようにするとともに、授業や教材がマンネリにならないようにする必要がある。

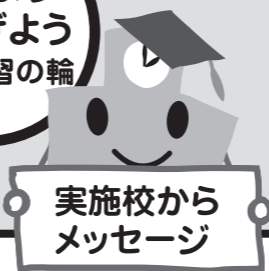
子供たちの興味・関心を広げるために、出前授業をもっと取り入れていきたいが、現在は有料のものも多く、費用を工面することが大変である。

また、安全なくしては、学校の外や地域での活動はできないため、地域の方や保護者の方の協力が必要である。



緑地での学習

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

地域の環境や魅力はそれぞれ異なります。地域と関わる環境活動を進めるにあたって、他校の実践例は参考になりますが、同じことはできません。下調べの段階で地域をよく知り、見極める必要があります。また、引率など学校内で教職員数が足りなければ、保護者に協力を得るという方法があります。保護者の理解は重要であり、大きな支えにもなります。